15〜68 μ, 長さ 20〜100 μ, 厚膜細胞はフロログルチン塩酸で桃赤色に染色する。この石細胞並びに石細胞に接した細胞には修酸カルシウムの単晶が存在する。第1期師部繊維 (bf) は3〜10層で存在し,一部は放射方向木部側に深く入り込み,入り込んだ部分の細胞は多く石細胞化し, 各細胞はフロログルチン塩酸で桃赤色に染色する。これに連絡する木部の細胞は放射組織となっている事が多い。師部繊維層の多くは厚膜繊維であるがところどころには石細胞 (st) が混在する。厚膜繊維の各細胞は円形〜卵形で 5〜13×5〜20 μ, 石細胞は円形, だ円形, 不整形で幅 20〜38 μ, 長さ 25〜50 μ である。師部繊維層に接して修酸カルシウムの単晶が存在し, 縦断面では結晶細胞列 (cf) となる。繊維の長さは 250〜650 μ である。師部 (ph) は師管, 師部柔組織からなり, 師管は不整形の細胞で 5〜8×5〜15 μ である。

内容物はフロログルコタンノイド様タンニン物質が特にコルク層の通常の細胞層に多く存在し, 第1期皮部中の柔細胞中にも包含する。修酸カルシウムの結晶は単晶(cs), と集晶 (cd) が存在する。単晶は 5〜25×5〜38 μ で第1期皮部中の厚膜石細胞やその周辺, 第1期師部繊維層及びその周辺に比較的多く分布する。集晶は 7〜30×7〜30 μ で第1期皮部の柔細胞や師部柔細胞中に存在するが師部柔細胞中の集晶は小さい結晶である。

組織は更に形成層 (c), 木部 (x), 髄となるが以降は省略する。

Summary

The chinese caude drug "Bokusoku" 樸樕 has been used for the itch and the swelling. In Japan, the materials of this good are supplied with the bark of *Quercus acutissima*, *Q. dentata* etc. This paper deals with an anatomical study for the bark of the deciduous leaved *Quercus* including *Q. phillyraeoides* (subgen. Lepidobalanus) in Japan. 8 species and 5 varieties are studied.

□佐藤武之: **阿蘇の野の花** 138頁。西日本新聞社 (福岡), 1978. VIII. 1300円。熊本県の東部にある阿蘇山に咲く草を, 阿蘇に住む著者が克明に追いかけてうつした写真集である。ふつうみられる出版物と違ってごく普通のものはふれておらず, 印象の強かったものだけにしぼってある。結果として阿蘇に多いものや珍らしいものがかなり載っているのは我々にとってもよい参考になる。アソヒカゲスミレの葉形, ベニバナヤマシャクヤクの紅花, ツクシマツモトの花容など, ことに紅花のウバユリの花はおどろきである。70ページのショウキランはキバナノショウキランと思う。 (前川文夫)